

87

ポンペ・ファン・メールデルフォールトの
日本における西洋医学教育についての報告相川 忠臣¹⁾, ハルメン・ボイケルス²⁾, 酒井 シヅ³⁾, 山之内 外一⁴⁾¹⁾活水女子大学, ²⁾ライデン大学, ³⁾順天堂大学, ⁴⁾大分視能訓練士専門学校

ポンペ・ファン・メールデルフォールトの西洋医学教育は1857年から1862年まで行われた。彼の3つの日本における医務報告が *Geneeskundig Tijdschrift voor Nederlandsch Indië* にある {初報 7: 495-572 (1860), 二報 9: 536-564 (1862), 三報 10: 527-542 (1863)}。1857年と1858年の医学教育が書かれた初報は昭和7年に中外医事新報 1188号 429-436頁に板澤武雄によりすでに要約されている。初報の要約に含まれない部分, 1859年の医学教育が書かれた二報, そして英文報告 {*Journal of the North-China Branch of the Royal Asiatic Society* 初報 1: 211-221 (1859), 二報 2: 85-91 (1860)} とを調べ, 彼のオランダ語講義ノート研究結果と照合した。

ポンペの *Vijf Jaren in Japan* には1857年11月12日に講義を開始したとあるが, 蘭初報には11月13日とある。蘭二報には1859年の海軍伝習学校閉鎖後, 同年8月1日に *Kaizerlijk Japansche school voor geneeskunde te Nagasaki* を開始したとある。

解剖学: ポンペは解剖学を重視し, 講義のためのノートを日本への航海中に作成し始めた。1857年12月27日に出島で弟子は完成した彼のノートを写した。解剖学と組織学の講義に *Weber's ontleedkundige atlas* を使用し (蘭初報), 1858年 *Dr. Chazour (L. Th. J. Auzoux)* の紙製解剖模型をパリから取り寄せる事にしたと英初報に述べている。古賀十二郎の西洋醫術傳來史に *Dr. Chazour* の製作に係る紙製解剖模型”とあるのはポンペの英初報を忠実に訳したための人名スペルの間違いであろう。長い交渉の末幕府の許可を得て, 1859年9月9日に45名の医師たちの前で刑屍を解剖し外科手術を教えた (蘭と英の二報)。英二報には西坂刑場に運ばれる前に桜町の牢屋で死刑囚が斬首される状況を含めて詳しく解剖実習について述べている。その追記には11月7日の2回目の解剖の報告がある。このとき60名以上の見学者と一日本女性 (シーボルトの娘楠本イネ) が参加した。非常に聡明であることが分かるような質問をした彼女に手術の助手を務めさせたと書かれている。シーボルトの同年9月9日の日誌に, ポンペに刑屍を使用しての解剖と外科手術の許可が下りたことが歴史的なことであり, 死刑囚斬首の状況についてポンペと同様の記載をしているのは興味ぶかい。 *Vijf Jaren in Japan* には“医師45名と女医1名”とあるので, 9月9日の初回解剖を楠本イネが見学したと思われる。しかし優れた女医であるとはその時点で認識していなかったので蘭英二報に45名とあるのであろう。解剖後アルコール保存標本を用いて眼耳の解剖学講義が最後になされ, 1859年末に解剖学は終了した。

生理学: 弟子のほとんどが生理学の存在すら知らず, 生化学的事項は理解困難なので省かざるを得なかった。 *F. C. Donders* と *A. F. Bauduin* の生理学教科書に基づいて生理学総論について生理学各論を講義し, 1859年11月に終了した。眼疾患が日本に極めて多いので12月には眼の生理学を追加した。眼耳の解剖学講義と時期的に一致する。

病理学総論: 蘭二報に *Budge*, *Wunderlich* と *Persille* の教科書から引用して講義ノートを作成し, 松本良順の指導下に3人の弟子たちが訳したとある。講義内容のレベルが権威ある教科書からノートを作成すれば維持できると彼は考えていた。オランダ語講義ノートの内容と順序は *J. Budge* の教科書の蘭訳本とよく一致する。

眼科学: オランダ語講義ノートの原典は *C. G. Th. Ruete* の教科書の *Donders* による蘭訳本である。ノートは最初の章, 眼の生理学が脱落し眼の病理学から始まっている。おそらくこの本の眼の生理学が生理学各論終了時の眼の生理学講義に使用されたのであろう。